



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.03) 平成22年度追補:30-32.

入院患児の歯磨きの意識向上と習慣化に向けて

吉野智香子、荒木御里、内田祐介、高橋千尋、飯崎あずさ、塩谷今日子、外川恵子

入院患児の歯磨きの意識向上と習慣化に向けて

旭川医科大学病院 4階西ナーステーション

©吉野智香子 荒木御里 内田祐介
高橋千尋 飯崎あずさ 塩谷今日子 外川恵子

研究目的

歯磨きの実態を明らかにし、感染予防行動としての歯磨きへの意識を高め、習慣化するための看護の方向性を明らかにする。

研究方法

研究対象: 4歳~8歳の男児6名と女児4名とその母10名

研究期間: 平成22年8月~平成22年9月

データ収集方法

1. 歯磨きの実態調査

独自に作成した質問紙を用いて母と児、個別に聞き取りを実施。質問項目は歯磨きの手技・知識・意欲に関するものとした。

2. 教育的介入の実施

保育士と協働し手技・知識・意欲の3つのアプローチをもとに教育的介入を実施し、参加観察法で評価した。

3. 教育的介入後の評価

1週間後、3つの項目にそった事後調査を行い評価した。

データ分析方法

教育的介入時の参加観察法で得た結果と前後で行った聞き取り調査の結果を単純集計した。

さらにその結果を歯磨きに関する意識と行動の変化に視点をあて分析した。

倫理的配慮

研究目的・内容を文書で説明し、同意を得た。

さらに研究への参加は自由意思であり、プライバシーの保護を保証した。

結果1—① 事前調査(児)

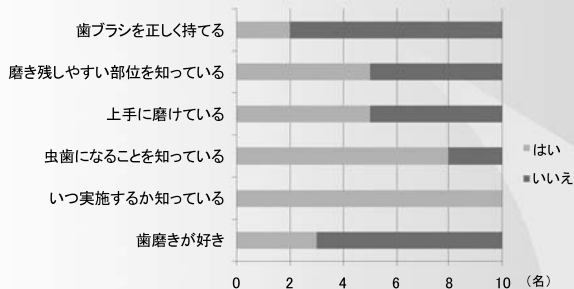


図1. 児の歯磨きに対する実態

結果1—② 事前調査(母)

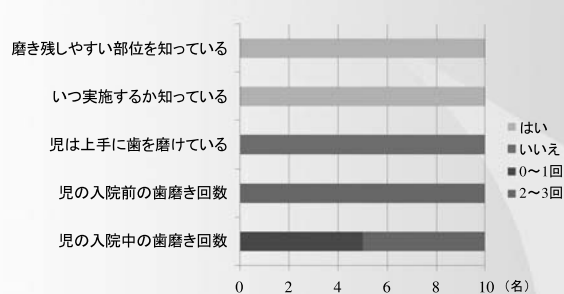


図2. 母の歯磨きに対する実態

結果2 教育的介入

1. 歯垢染色剤を使用して歯磨きを実施した
2. モデル人形を用いて正しい歯磨き方法を指導した
3. 指導後に再度、歯磨きを行った



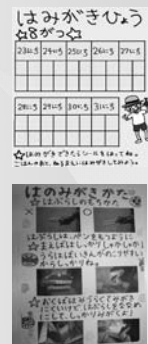
指導前



指導後

結果2 教育的介入

1. 指導内容をポスターにして、各病室の洗面所に掲示した
2. 歯磨き表を作成した
3. 歯磨き会后、母達へ指導内容を記載したパンフレットを配布し、再度、歯磨きの必要性を意識付けるように説明した
4. 児の歯磨き状況を、ポスターを参考に正しく磨けているか、歯磨き表をもとに確認した



結果3—① 事後調査(児)



図3. 児の歯磨きに対する意識

結果3—② 事後調査(母)

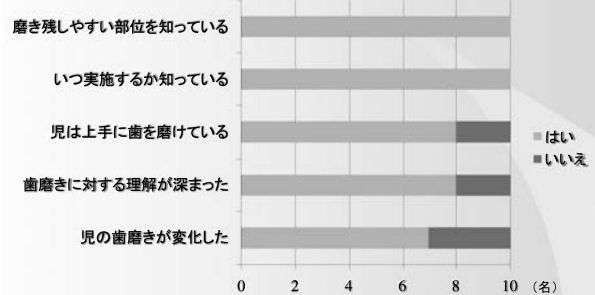
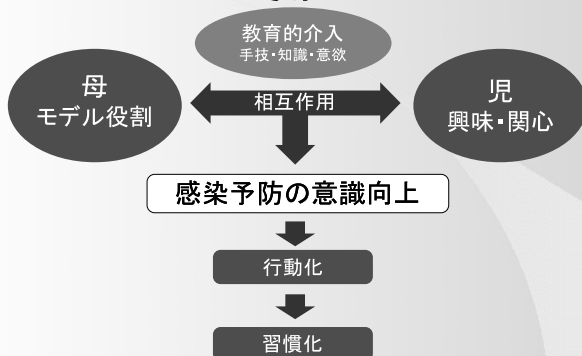


図4. 母の歯磨きに対する意識

考察



結論

1. 手技・知識・意欲の3つの視点からの教育的介入は、母児の歯磨きへの意識を高め行動化に繋がる。
2. 幼児期、学童前期の患児が歯磨きを行動化するには、モデル役割としての母の意識向上と児の歯磨きに対する意識の向上の相互作用が必要である。

今後の課題

- 1、病棟保育士とともに発達段階に応じた教育的介入の内容を具体化する。
- 2、歯科口腔外科や緩和ケアチームと連携し口腔ケアの質を向上していく。